

- 西条市教育委員会 -

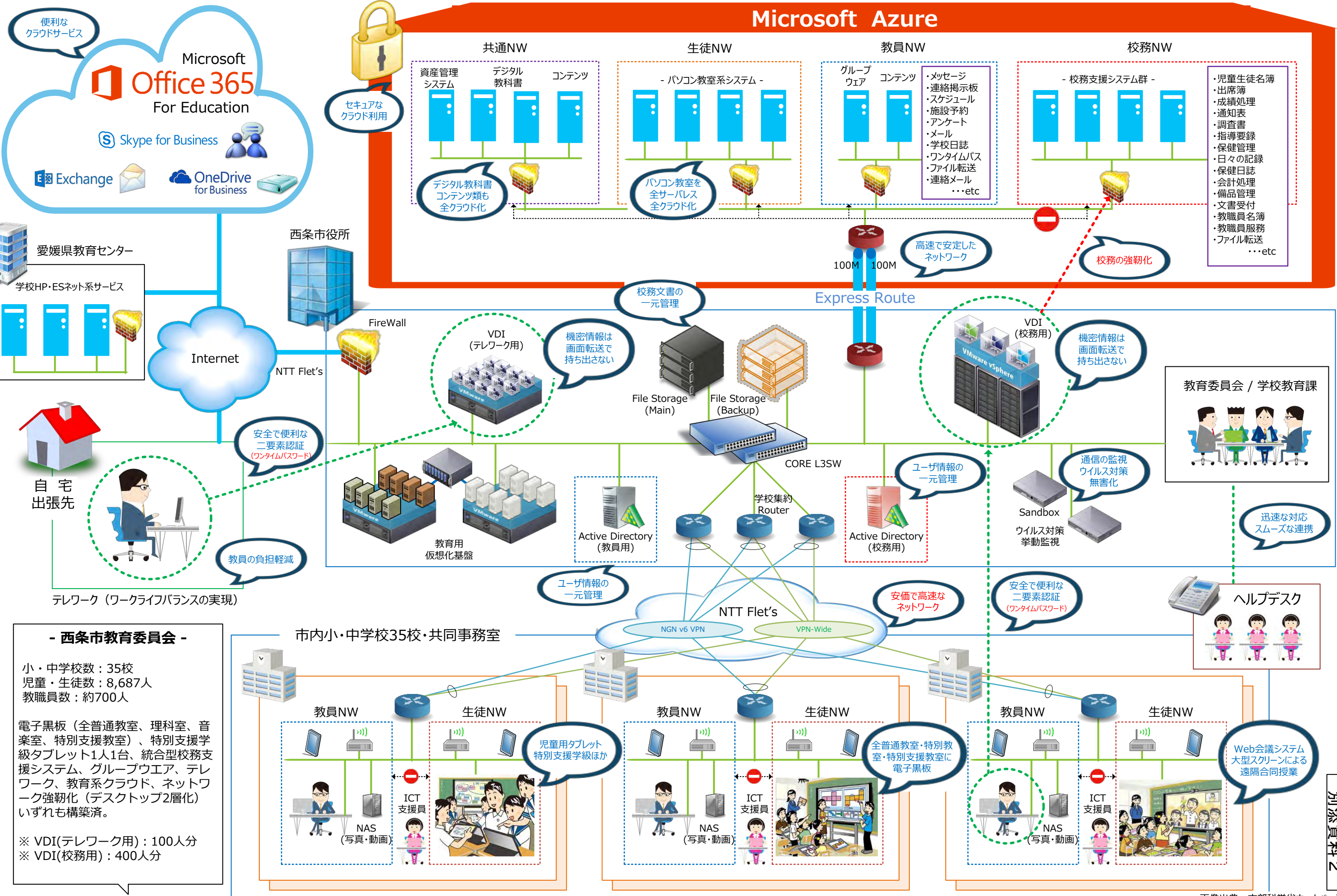
小・中学校数：35校
 児童・生徒数：8,687人
 教職員数：約700人

※ VDI(テレワーク用)：100人分
 ※ VDI(校務用)：400人分

- ・児童生徒名簿
- ・出席簿
- ・成績処理
- ・通知表
- ・調査書
- ・指導要録
- ・保健管理
- ・日々の記録
- ・保健日誌
- ・会計処理
- ・備品管理
- ・文書受付
- ・教職員名簿
- ・教職員服務
- ・ファイル転送
- …etc

画像出典：文部科学省ホームページ

別添資料 1



- 西条市教育委員会 -

小・中学校数：35校
 児童・生徒数：8,687人
 教職員数：約700人

電子黒板（全普通教室、理科室、音楽室、特別支援教室）、特別支援学級タブレット1人1台、統合型校務支援システム、グループウェア、テレワーク、教育系クラウド、ネットワーク強化（デスクトップ2層化）いずれも構築済。

※ VDI(テレワーク用)：100人分
 ※ VDI(校務用)：400人分

画像出典：文部科学省ホームページ

別添資料2

RICOH
 Visual Communication
 お客様導入事例



リコー ユニファイドコミュニケーションシステム(RICOH UCS)を活用した
 バーチャルクラスルームで離れた学校間をつないだ、遠隔合同授業を実現。
 子どもたちの21世紀型スキルを育む教育環境を構築されました。

愛媛県 西条市教育委員会様

Profile

- 2015年より市内全ての小・中学校において「小中学校ICT教育推進事業」を実施。
- URL : www.city.saijo.ehime.jp/soshiki/gakkokyoiku/
- ご導入機種 : 西条市立小学校4校に、合計RICOH UCS 11台 (2017年11月現在)



過疎化・少子化に伴い
 小学校統廃合の危機に直面。
 市内の地域間格差の是正、
 子どもたちのコミュニケーション力
 の向上が課題でした。



西条市教育委員会
 学校教育課
 指導担当専門員 兼
 教育CIO補佐官
 山内 雅博様

愛媛県西条市教育委員会様は、「心豊かにたくましく生きる西条っ子の育成」を教育目標に掲げ、ICT* (Information Communication Technology) を活用した「学びあい学習」を推進されています。市内の小学校4校に合計11台のRICOH UCSを活用し、バーチャルクラスルームを設置。学校間をつないだ遠隔合同授業を実施。小規模校が抱える課題を解消しながら、さらに子どもたちの21世紀型スキルを育む活気ある授業を実践されています。また、先生同士がお互いの指導を見ることで授業改善に役立てるなど、指導力向上の面でも成果をあげられました。

* ICTとは情報通信技術の略称です。

導入前の課題	導入後の効果
<p>過疎化・少子化により小学校統廃合の危機に直面していた。</p> <p>児童が多様な意見に触れる機会が少なく、コミュニケーション力を高めにくい環境だった。</p> <p>小規模校ゆえの複式学級指導を進めていたが、先生の負担があった。</p>	<p>統廃合を行わずICTを使ったバーチャルクラスルームで、一体感のある遠隔合同授業を実現。地域間格差の是正にもつながっている。</p> <p>学校間がつながり、児童のコミュニケーション力、問題解決力、批判的思考力が向上した。</p> <p>先生の負担を軽減し、本来の指導に専念できる環境を整えることができた。</p> <p>先生同士が教え方を学び合うことで、授業改善や指導力向上にも役立っている。</p>

バーチャルクラスルームによる
ひとつのクラスのような一体感で
二人の先生が役割分担して活気ある授業を進行。
子どもたちの学びの意欲や、
伝える力が育まれています。



西条市立丹原小学校
教諭 濱口尚子先生

西条市立田野小学校
教諭 今井真寿見先生

ICTを活用したバーチャルクラスルームでの遠隔合同授業によって一気に友だちが増えて、児童はワクワクする毎日だったと思います。自分たちだけでは得られないような考え方や表現の仕方を、大勢の中で学べることは大変有意義なことです。やはり、スクリーンを通して“見られている”ことが良い効果を生んでいるのではないのでしょうか。「あの子が手を挙げているから私もがんばろう」、「僕の考えを大きな声でわかるように伝えたい」と積極性が増して、学習に対する意欲が高まってきています。合同授業は二人の先生が協力してつくり上げるもの。T1※（発信側の先生）の先生が教壇に立って授業を進行し、T2※（受信側の先生）の先生は、子どもたちのつぶやきを拾ったり、わからない児童に寄り添ってヒントを出したり、一人ひとりをフォローします。スクリーンの向こうの児童にも気を配りますし、声掛けします。二人の先生が組んで授業を行うから、学習の内容をしっかりと進めながら、同時に、机の上の様子や姿勢にまで目を配ることが可能になります。

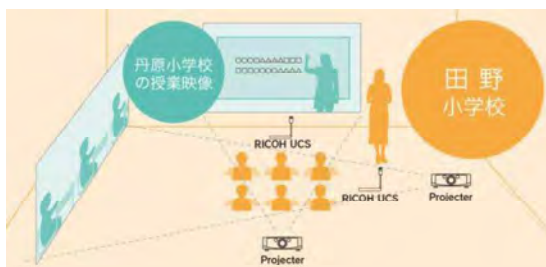
※T1（発信側の先生）、T2（受信側の先生）：2人の教員で役割分担して授業を担当。授業の進行をT1が担い、児童のフォローなどをT2が担う。



スクリーンの向こうの新しい仲間から刺激を受け合えることで、積極性や、相手に伝える力が育まれ、学習への意欲が高まっています。

他の先生の授業を見ることで新たな気づきがある。 授業改善や指導力向上にも役立っています。

遠隔合同授業を通して、教える側にも大きな効果がありました。ベテランの先生は若手の先生の取り組みに刺激を受け、若手の先生はベテランの先生の児童への関わり方や、発問、指示、指導の仕方をリアルタイムで学んだりすることができます。教師は他の先生の授業を見る機会はありませんでしたが、合同授業を導入してからはお互いの授業を見て、改善を図ることができ、指導力を高める有意義な場となっています。学校間での教員研修にも積極的に活用して、より良い授業を展開していきたい、深めていきたいと考えています。



RICOH UCSとプロジェクターにより、遠隔地の授業を150インチスクリーン2面に映し出します。同じ場所で授業を受けているような、臨場感のあるバーチャルクラスルームを実現しました。

RICOH UCS導入
3大選
定ポイント



- ①遠隔間の授業の様子を、鮮明な映像と音声でリアルタイムに送受信できる。
- ②簡単に操作できて、先生が日々の授業で活用しやすい。
- ③年間約130時間使っても、トラブルなく稼働していて信頼できる。

西条市教育委員会様のソリューション事例を、さらに詳しく、Webで。
http://www.ricoh.co.jp/case/1711_saijo/

※本ページ記載の会社名および製品名は、それぞれ各社の商号、商標または登録商標です。

RICOH Unified Communication System

ricoh.co.jp/ucs/

RICOH
imagine. change.

リコージャパン株式会社

お問い合わせ・ご用命は

<http://www.ricoh.co.jp>

記載内容は、2017年12月現在のものです。